2022年度　幼稚園自己評価

日南飫肥カトリック幼稚園

「できている」ことが…A: 8 割以上　B: 5 以上～ 8 割未満　C: 2 以上～ 5 割未満　D: 2 割未満

教育保育方針について

I	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	本園の理念を踏まえ、めざす子ども像を意識した教育保育を行っている。	○職員会や終礼、随時配付・配信する資料、メール、動画をとおして、共通理解を図った。 ○毎月の聖書の時間を中心とした宗教教育を計画的に行った。 ●コロナ対策のため、職員間で協議する機会が減った。	B
2	カトリックの精神に基づいた宗教教育を実践している。		

指導計画の作成について

II	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	発達の見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮しながら、計画的に教育保育を行っている。	○月案、週案、日案、個別の計画を欠かさず作成し、具体的なねらいを明確にしながら教育保育を行っている。 ●コロナ禍により、地域の方々との交流ができなかった。参観日も設定しにくくなっている。	B
2	めざす子ども像を意識して、年齢に応じた自己決定の場を設けている。		

防災教育について

III	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	常に防災・安全マニュアルを整備し、防災備品の充実に努めている。	○毎月避難訓練を実施し、職員の役割分担を見直しながら非常時に備えている。 ○AEDや見守りカメラ、地震速報システムや電磁錠システムの定期点検を行い、施設の充実にも努めている。 ●様々なケースを想定した訓練方法を工夫する必要がある。	A
2	訓練の結果を振返り、次に生かすようにしている。		

環境・安全管理について

IV	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	安全で衛生的な環境が整えられ、備品等も効率的、かつ安全に配置されている。	○役割分担や情報の共有方法を見直し、安全安心な環境がさらに整いつつある。 ○保育理念を踏まえた遊具、玩具の整備が徐々に進んでいる。 ●補修工事が必要となった場合の業者との連携を強化したい。	B
2	必要な玩具・遊具、非常時の備蓄が整備されている。		

行事について

V	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	本園の方針に沿った具体的なねらい及び内容が明確にされている。	○主な行事についてはアンケートを実施して保護者の意見も聞きながら改善に努めている。 ●行事計画の様式を整理し、全ての職員が留意事項まで把握できるようにしたい。	B
2	実施後は反省をし、次へ生かすようにしている。		

情報管理・発信について

VI	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	各種たよりを定期的に発行し、保護者の理解を得る努力をしている。	○各種たよりに加え、ホームページやFacebookも活用し、日常の保育の様子や行事案内に関する情報発信を行っている。また、急ぎ知らせる必要がある情報は、メールを活用して迅速な提供を心がけている。 ●災害時の連絡方法を複数確立する必要がある。	A
2	行事や園の取組など、必要な情報が適切に発信されている。		

子育て支援について

VII	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	ひよこクラブの内容を工夫しながら計画的に実施している。	●コロナ禍で、未就園児保護者向けの子育て支援教室が1/3程度しか実施できなかった。 ●子育て家庭の悩みや不安解消に貢献できるよう、ニーズにあった支援内容を工夫していきたい。	B
2	各種たより、HPやFB等で子育て支援に関する情報を発信している。		

人権・特別支援教育について

VIII	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	偏見や差別的な言動、掲示物には十分注意している。	○特に配慮が必要な園児に対して有効な支援ができるよう、研修会には積極的に参加し、関係機関とも連携を密にしている。 ●職員研修をさらに充実させ、全職員が同じ姿勢で保育に当たれるよう、共通理解、共通実践の徹底を図りたい。	B
2	一人一人の立場に寄り添った対応をしようと努めている。		

衛生・食育について			
IX	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	給食やおやつの献立や量は適切である。	○アレルギー対応の除去食に関する事故がないよう、共通理解の仕方を工夫したり、別の食器を準備したりしている。 ●献立検討会を充実させ、楽しくて心も体も成長できる給食を実現するための手立てをさらに工夫していきたい。	A
2	感染症やアレルギーへの対応は適切である。		

小学校・地域・保護者連携について			
X	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	小学校と連携した取組を行っている。	○運動会、発表会は入場者数を制限するなど、感染予防対策を施しながら、実施することができた。 ●飫肥地区の保育施設や近隣の小学校との連携を図る計画だったが、コロナ禍により予定の半分も実施できなかった。 ●参観日や懇談会もコロナ禍で十分に実施できなかったので、やり方を工夫する必要がある。	B
2	地域と連携した活動を行っている。(感謝訪問、施設訪問、収穫体験)		
3	保護者(会)との細かに連携を図っている。		

評議員の皆様からのご意見(要旨)

○コロナ対策として、手洗いや手指消毒に関する指導の強化、換気や備品・室内消毒の徹底、職員・保護者に対する啓発活動の推進を積極的に行っており、安心・安全な園生活の実現につながっている。感染症に対する不適切な対応は、感染拡大を招くだけでなく不当な差別や分断を生む。今後も子どもだけでなく、保護者に対しても適切な情報発信と根拠が明確な一貫した対応をとっていただきたい。

○カトリック園として、心の教育のさらなる充実を図ってもらいたい。また、その内容を子ども達の具体的な姿として、お便りやＨＰ、Facebook、Instagramでも引き続き発信に努め、教育保育理念を保護者と十分に共有できる園を目指していただきたい。

○職員研修の充実は、教育・保育の質を向上させる上で大変重要な取り組みである。時間確保が難しいであろうが、内容を工夫しながら取り組んでいってもらいたい。

○他園や小学校との交流は、園で培った力をさらに伸ばし、小学校生活をスムーズにスタートさせる上で大変重要な取組であると評価できる。感染症対策で難しくなっている面もあるが、できることを工夫しながら実践を重ね、小学校との連携が途絶えないように努力してもらいたい。